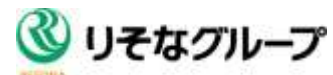


◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2021/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは11月30日(火) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

	11月29日現在 (矢印は10月末比)	12月の予想
USD	ドル・円 (円) ↘ 113.53	↘ 110.00 ~ 115.00
	新変異株への警戒感から過度な利上げ期待の剥落が進む可能性	
EUR	ユーロ・ドル (ドル) ↘ 1.129	⇒ 1.10 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円) ↘ 128.19	↘ 122.00 ~ 132.00
	FRBの利上げ期待が剥落する局面では、EURは対ドルで持ち直す	
GBP	ポンド・ドル (ドル) ↘ 1.332	↘ 1.31 ~ 1.36
	ポンド・円 (円) ↘ 151.15	↘ 147.00 ~ 155.00
	欧州のコロナ感染拡大にオミクロン株の発生はポンドに逆風	
AUD NZD	豪ドル・円 (円) ↘ 81.09	↗ 78.00 ~ 85.00
	NZドル・円 (円) ↘ 77.48	↗ 75.00 ~ 81.00
	リスク回避の巻き戻しと日本との金融政策格差で買い戻しが入る	
株式 相場	日経平均 (円) ↘ 28,284	⇒ 26,000 ~ 30,000
	オミクロン株の性質見極め、国内感染拡大抑え込めるかがカギ	
	NYダウ (ドル) ↘ 35,136	⇒ 33,500 ~ 36,500
	オミクロン株の感染動向を受けたFRBの政策対応に注目	
長期 金利	日本 (%) ↘ 0.076	⇒ 0.00 ~ 0.10
	オミクロン株懸念も円金利は落ち着いた推移が継続	
	米国 (%) ↘ 1.499	⇒ 1.20 ~ 1.65
	オミクロン株の感染動向を受けたFRBの政策対応に注目	

◆ 今月の注目ポイント

オミクロン株の感染拡大動向見極めへ

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【欧州のコロナ感染動向と新たな変異株】足元欧州を中心に新型コロナ感染が再拡大。また先月下旬には南アフリカで新たな変異株の感染が拡大との報道もあり、再度コロナへの懸念が高まる。今後リスクオフの動きが継続するかのポイントとしては①世界に広がるか②致死率が高まるものか③ワクチン耐性はどうかであるが、現状は不透明要素も大きく、ヘッドラインに振られる展開となりやすい。
金融 政策	◎	【FRBテーパリング加速とドットプロット】14-15日のFOMCではインフレ高進を受け22年の利上げ観測が高まる中、テーパリング加速の有無や、FOMCメンバーの政策金利見通しを表すドットプロットが注目される。ECBや日銀との政策の方向性の違いが鮮明となろう。
政治	◎	【米国財政動向】1.75兆ドル規模の気候変動・社会保障関連歳出法案(BBB法案)は下院を通過したが、上院審議は難航とみられる。また3日に22年度本予算成立までのつなぎ予算が期限を迎えるほか、債務上限問題も先送りされたままとなっており、動向が注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↘ 17.20 ~ 18.00	ルピー・円	↘ 1.47 ~ 1.52
バーツ・円	↗ 3.30 ~ 3.50	ウォン・円	⇒ 9.30 ~ 9.80
ルピア・円	↘ 0.78 ~ 0.80		

◆ 今月の重要日程

1日(水) 米	11月ISM製造業	15日(水) 米	FOMC<結果発表>
3日(金) 米	11月雇用統計	16日(木) 欧	12月PMI
7日(火) 豪	RBA理事会	16日(木) 英	BOE金融政策委員会
10日(金) 米	11月CPI	16日(木) 欧	ECB理事会
15日(水) 中	11月生産・小売・投資	17日(金) 日	日銀金融政策決定会合
15日(水) 米	11月小売売上高	24日(金) 日	11月CPI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

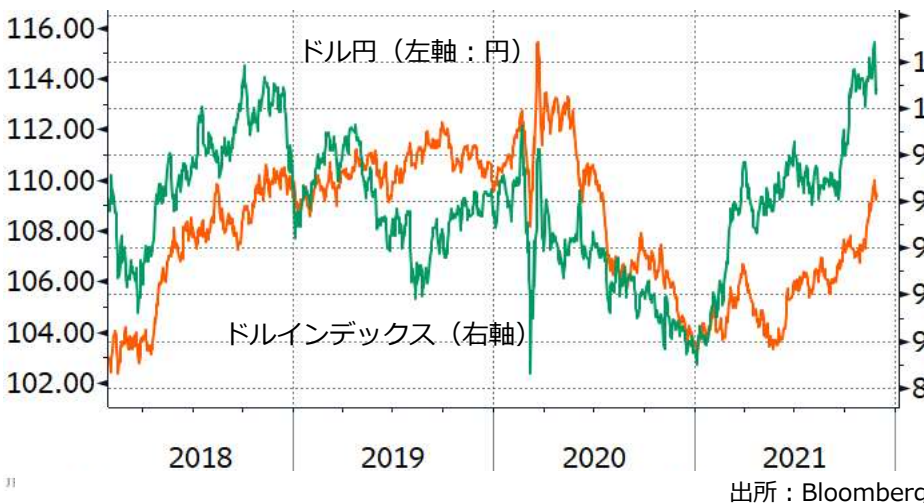
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

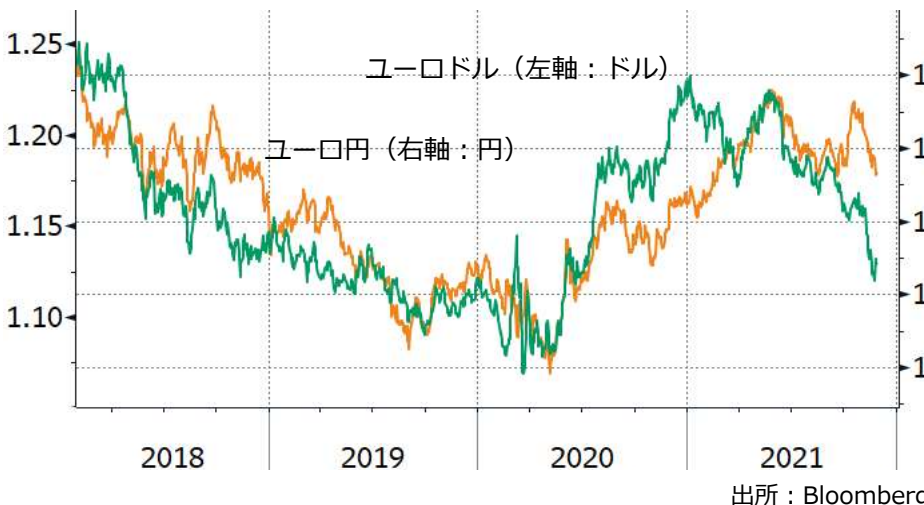
110.00 – 115.00円

新変異株への警戒感が台頭するなか、過度な利上げ期待の剥落が進む可能性

11月のドル円相場は上下に値幅の大きい1か月となった。月初は一部で利上げが期待されていた英国中銀が利上げを見送ったことをきっかけに、世界的に利上げ期待が一服し、ドル円相場も下落。一方、その後発表された米国の物価指標や小売統計が好調となり米経済の底堅さが確認されたことや、FOMC議事要旨にてテーパリングペース加速の可能性が高まり市場の利上げ期待が再び高まると、ドル円は年初来高値を更新し一時115.52円まで上値を伸ばした。ただし月末には南アフリカで確認された新たな変異株の出現により、経済再開を前提としていたマーケットに動揺が走り、株価、金利とともにドル円も大きく下落する展開となった。

12月の相場は変異株の感染状況に大きく作用されるが、欧州中心にロックダウンの動きが強まっていることや、サプライチェーンの混乱に一服感が出始めていた矢先のタイミングであったことから、マーケットは悲観的に反応しやすいであろう。市場ではFRBの利上げを一時来年3回ペースまで織り込んでいたため、感染再拡大がFRBのスタンスを慎重にさせるとの思惑が高まれば、失望感からドル円も下値を試す可能性があるだろう。引き続き中長期的には円安と見るが、年末年始は円高になりやすいという季節性もあり、当面は不安定な相場動向に注意が必要であろう。

ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.10 – 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

122.00 – 132.00円

FRBの利上げ期待が剥落する局面では、EURは対ドルで持ち直す

10月のEUR相場は対USD・対JPYともに軟調な展開となった。FRBの金融正常化・利上げ期待が高まるなか、相対的に緩和姿勢の長期化が見込まれるECBのスタンスが意識され、EURは選好されにくい商状にある。ドイツの連立政権協議が合意した点は安堵感に繋がるものの、欧州では折しも感染再拡大傾向にあったうえ、新たな変異株の出現によって更に感染が深刻する場合は、一段とEUR相場の重石になる可能性があるだろう。

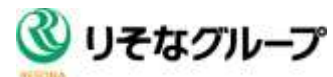
テクニカル的に重要な節目と考えられるEUR/USD = 1.12、EUR/JPY = 128.00を一時割り込む場面もあり、当面は下値模索の展開に注意が必要ではあるが、変異株の台頭によりFRBを始めとした相対的にタカ派な中銀の金融正常化姿勢が弱まる展開となった場合は、元より中銀がハト派姿勢であったEURやJPYには一定の買戻し圧力も発生しよう。EURは引き続き対JPYでは上値の重い展開を予想するが、対USDでは一進一退となりやすいであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

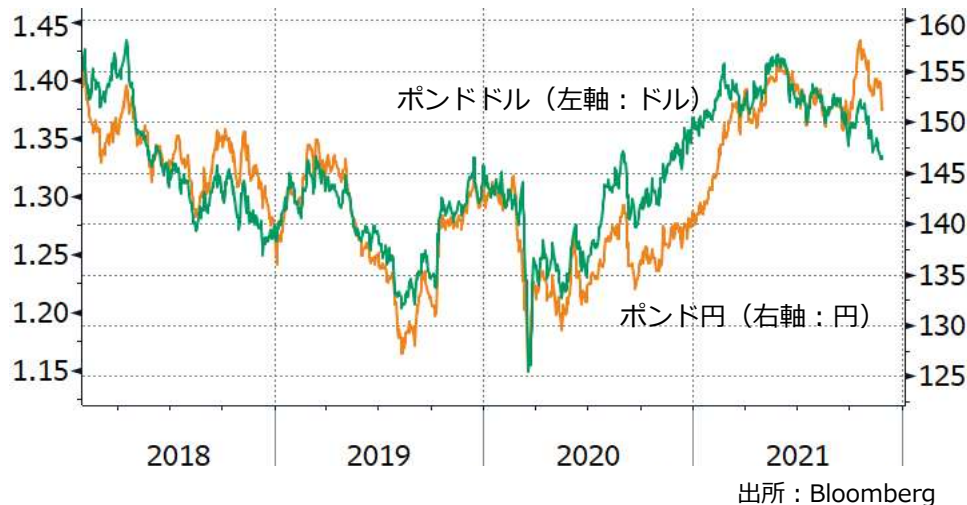
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.31 - 1.36ドル

ポンド円



ポンド円は下落

147.00 - 155.00円

欧州のコロナ感染拡大にオミクロン株の発生はポンドに逆風

11月のポンドは対ドル、対円ともに下落となった。11月4日に英中銀が金融政策委員会で政策金利の据え置きを決定すると、一部の利上げ予想が剥落しポンドは大きく下落。その後は、堅調な労働関連の指標や物価指標の上振れから年内の利上げ観測が再び強まり、上昇した場面もあったが、欧州を中心としたコロナ感染拡大から総じて軟調に推移した。

12月のポンドは対ドル、対円ともに下落を予想。インフレリスクに対処するために、12月の英中銀の政策決定会合で利上げが実施される可能性があるものがあるものの、足元英国を含めて欧州ではコロナ感染が拡大しており、加えて変異株オミクロンの出現で景気の先行き不透明感が一層強まった。英中銀は恐らく慎重に動くだろう。その一方で米FRBのテーバリング加速観測が継続すると、ポンドドルはダウンスайдのリスクに偏りやすいとみる。先行き不透明感が続くなかでポンドは円に対しても売られやすいと考えられる。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円



豪ドル円は上昇

78.00 - 85.00円

NZドル円



NZドル円は上昇

75.00 - 81.00円

リスク回避の巻き戻しと日本との金融政策格差で買い戻しが入る

11月のオセアニア通貨は弱含みで推移。2日の豪中銀会合ではYCCの撤廃を決定、24日のNZ中銀会合では0.25%の利上げを決定。それぞれ金融引き締めの動きとなったが、事前に予想された内容でいずれも材料通過後はAUD、NZDの利益確定売りが優勢となった。また豪雇用統計が軟調な結果となったことや欧州のコロナ制限の動きもリスク回避で相場を下押し。月末に新たな変異株懸念が発生したことで、円高と豪ドル・NZドル安が急速に進み、大きくレンジを切り下げた。

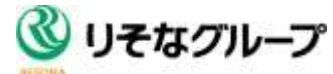
今月の豪ドル円、NZドル円は上昇を予想。11月末に急速に進んだリスク回避の動きは一部巻き戻され、両通貨に買い戻しが入ると想定。グローバルのコロナ感染拡大でも、比較的感染症の状況が良好な両国中銀の金融政策スタンスに大きな変化はないとみており、日本との金融政策格差が上昇材料となる。変異株に対する警戒感が薄らぎ、月後半は上値を試す展開を想定。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

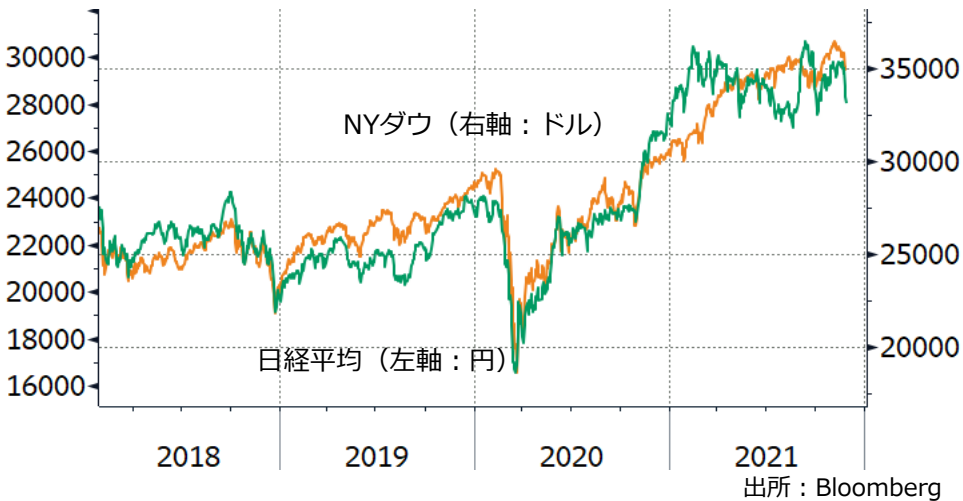
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

26,000 - 30,000円

オミクロン株の性質見極め、国内感染拡大抑え込めるかがカギ

11月の日本株は、岸田新政権による巨額の経済対策を受け3万円に肉薄する場面もあったが、月末に新型コロナの新たな変異株「オミクロン」への懸念から大きく下落した。オミクロン株に関しては引き続き不透明要素が大きく、今月の日本株はヘッドラインに振られる展開が予想される。日本は現状感染が抑えられているほか、政府も迅速に水際対策を強化する措置を取った。国内感染を抑え込むことができれば欧米対比底堅い展開も期待される。

NYダウ

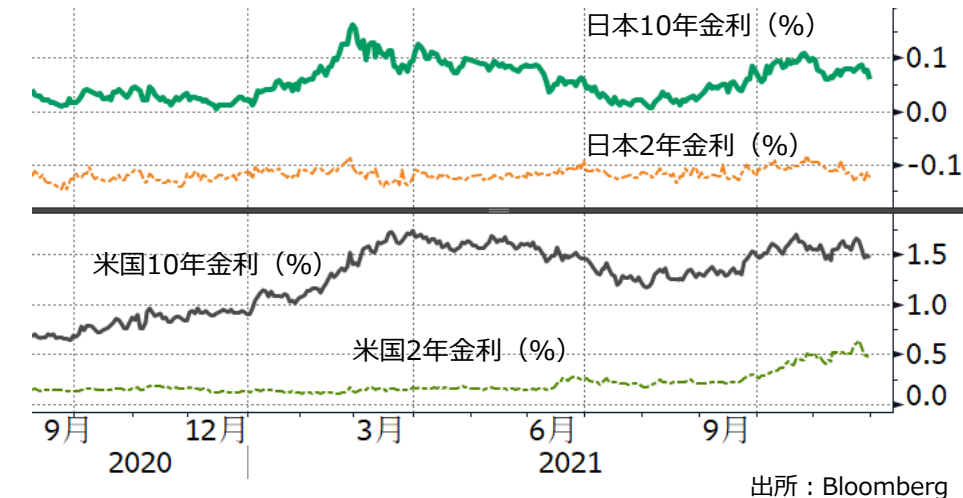
⇒ ダウは横ばい

33,500 - 36,500ドル

オミクロン株の感染動向を受けたFRBの政策対応に注目

11月のNYダウは総じて上値の重い展開となった。インフレ高進に伴いFRBによる利上げ観測の前倒しが意識されたほか、月末にはオミクロン株への懸念から大幅な下落となった。今月のNYダウもオミクロン株の動向を見極める動きとなりそうだが、仮にオミクロン株の影響が深刻となればFRBの早期正常化が後ずれする可能性もあり、リスク資産にはポジティブな側面も。12月FOMCではテーパリングの加速も見込まれていたが、どのような判断が下されるか注目が集まる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.00 - 0.10%

オミクロン株懸念も円金利は落ち着いた推移が継続

11月の円金利は月初に急低下後、米金利の上昇や財政出動規模が大幅なものとなったことなどから上昇基調となったが、オミクロン株の拡大を受け上げ幅を縮小させた。12月の円金利も横ばいを予想。今回のオミクロン株懸念を受けた円金利の低下幅は小幅に留まっており、米金利が落ち着いた動きとなれば横ばい圏での推移が継続しやすいものと予想。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

1.20 - 1.65%

オミクロン株の感染動向を受けたFRBの政策対応に注目

11月の米金利はFRBの利上げ前倒し観測から上昇基調だったが、月末にかけてオミクロン株への懸念が台頭し急低下した。資源価格も一旦落ち着きを見せていることから今月の米国債は横ばい圏での推移を予想。オミクロン株の性質には不透明要素も多く、引き続きヘッドラインに振られやすい展開と見る。一方でオミクロン株の動向を受けFRBが金融正常化への手を緩める場合には一段の金利低下の可能性も。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

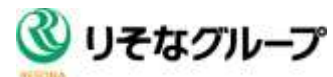
		11/29		11月の相場推移		12月の予想	解説
中国	人民元/円	17.80	➡	17.63~18.07	➡	17.20~18.00	11月のドル人民元相場は狭いレンジ内でもみ合いの動きが続いた。米金融政策への観測からドル高地合いとなる一方、人民元も他通貨に対しては強含み、通貨バスケットに対する人民元指数は2015年以来の高水準。人民元円は円安進行の局面で一時18円台に乗せた。今月のドル人民元相場もみ合い継続と予想。当局が為替安定化を志向する中で上下にレンジは出づらいとみる。
	ドル/人民元	6.388	➡	6.362~6.409	➡	6.33~6.45	
タイ	バーツ/円	3.369	➡	3.348~3.515	➡	3.30~3.50	11月前半は感染者数減少や観光客受け入れ再開を好感してバーツに買い戻しが入ったものの、月後半は欧州の感染拡大等を受けて再びバーツ売りの流れ。月末に新たな変異株の発生が伝わると、バーツは下値を試した。今月のバーツは対ドルで買い優勢と想定。変異株懸念で上値は重い、相対的にタイを含むアジア圏の感染動向が落ち着いて推移することで、経済回復期待で堅調とみる。
	ドル/バーツ	33.68	➡	32.56~33.77	➡	32.7~34.2	
インドネシア	ルピア/円	0.793	➡	0.788~0.810	➡	0.780~0.800	11月は史上最大となった経常黒字がルピア高材料も、インドネシア中銀の成長重視の緩和姿勢が金融政策正常化観測の出る米国との格差が下落材料となった。12月のドルルピアは下落(ルピア安)を予想。足元コロナ感染状況は落ち着いているが、オミクロン株がワクチン接種率が低水準の同国に脅威をもたらす可能性。安全通貨への逃避がみられる中で、ルピアは対ドルも対円も軟調とみる。
	ドル/ルピア	14,323	➡	14,185~14,390	➡	14,200~14,450	
インド	ルピー/円	1.511	➡	1.505~1.553	➡	1.47~1.52	12月のドルルピー相場は横ばい(ルピー安)を予想。11月のルピーは米金融政策正常化観測による米金利上昇を受け軟調に推移した。インフレリスクが懸念されるなか、10月のインフレ指標は高止まりも一段と上昇する結果とはならず、12月にインド中銀の利上げの動機付けが弱まっただろう。米国の金融政策スタンスの違いから今月のルピーも軟調な展開になりやすいと考えている。
	ドル/ルピー	75.09	➡	73.85~75.16	➡	74.00~76.00	
韓国	ウォン/円	9.518	➡	9.472~9.771	➡	9.30~9.80	ウォン相場は米金融引き締め観測に伴うドル高の裏でじりじりと下落した。対円では底堅く推移していたが、月末のオミクロン株による急速な円高で大きく下落。韓国中銀は高インフレや資産価格上昇を背景として11月会合で追加利上げを決定した。新型コロナの変異株懸念が台頭する一方、過去最悪水準となっている韓国国内の感染動向が落ち着けば、今月はウォンに買い戻しが入ると予想。
	ドル/ウォン	1,193	➡	1,172~1,196	➡	1,160~1,220	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート

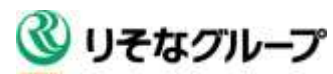


◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

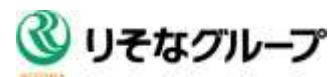
		2021年		2022年		ポイント
		12月	1～3月	4～6月	7～9月	
ドル円	レンジ	110～115	108～114	108～118	110～120	中長期的には円安基調も、過度なFRBの利上げ織り込みが剥落する場面ではJPY買い圧力が強まる。
	期末値	112	112	116	117	
ユーロドル	レンジ	1.10～1.15	1.05～1.18	1.10～1.16	1.10～1.18	ECBの戦略見直しにより、FRBと比較して緩和は長期化する見込み。折しも感染再拡大傾向にあったなかで新変異株の出現は一段とEUR相場の重石になりやすい。
	期末値	1.12	1.13	1.12	1.13	
ユーロ円	レンジ	122～132	122～132	122～134	125～135	
	期末値	125	126	130	132	
ポンドドル	レンジ	1.31～1.36	1.30～1.34	1.29～1.40	1.28～1.38	足元英CPIが高い水準にあるものの、英国のコロナ感染拡大や変異株の出現で英中銀は金融引き締めへの慎重な姿勢が継続しやすく、ポンドの上値を抑えるだろう。
	期末値	1.32	1.31	1.34	1.33	
ポンド円	レンジ	147～155	144～152	145～160	145～160	
	期末値	148	147	155	155	
ドル人民元	レンジ	6.33～6.45	6.35～6.70	6.35～6.70	6.40～6.75	米金融緩和縮小からドル高が進む一方、中国の活発な輸出環境等から人民元も堅調に推移する。来年央にかけ経済正常化の過程では元高に巻き戻し入る。
	期末値	6.40	6.50	6.50	6.60	
人民元円	レンジ	17.2～18.0	16.7～17.9	16.8～18.2	16.9～18.4	
	期末値	17.5	17.2	17.8	17.7	
豪ドル円	レンジ	78.0～85.0	80.0～88.0	86.0～93.0	86.0～93.0	資源高や金融政策格差を背景に中期的な上昇を予想、来年後半以降にはリスク選好の動き一服
	期末値	84.0	86.0	90.0	89.0	
タイバーツ円	レンジ	3.30～3.50	3.30～3.70	3.30～3.70	3.20～3.60	コロナ動向の落ち着きが好感されるも、世界的にコロナ影響残り観光業等の正常化は遠く上値が重い。
	期末値	3.40	3.50	3.50	3.40	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
12/1(水)	7-9月期法人企業統計調査	11月ADP雇用統計 11月ISM製造業景況指数 米地区連銀経済報告	(中) 11月製造業PMI
12/2(木)	10年債入札		
12/3(金)		10月製造業受注 11月ISM非製造業景況指数 11月雇用統計	
12/6(月)			(中) 11月貿易統計
12/7(火)	10月家計調査 10月毎月勤労統計 (速報) 30年債入札	10月貿易収支 3年債入札	(豪) 準備銀行理事会 (独) 12月ZEW景気指数
12/8(水)	11月景気ウォッチャー調査 7-9月期GDP (二次速報値)	10年債入札	
12/9(木)	5年債入札	30年債入札	(中) 11月CPI
12/10(金)	11月企業物価指数	11月CPI	
12/13(月)	10月機械受注		
12/14(火)		11月PPI	
12/15(水)		11月小売売上高 12月NY連銀製造業景況指数 FOMC (結果発表)	(中) 11月生産・小売・投資
12/16(木)	11月貿易統計 20年債入札	11月住宅着工・許可件数 12月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会 (欧) ECB定例理事会
12/17(金)	黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)		(独) 12月IFO企業景況感指数

	日本	米国	その他
12/20(月)			
12/21(火)			
12/22(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10/27~28開催分)	11月中古住宅販売 20年債入札 7-9月期GDP (確定値)	
12/23(木)		11月個人所得・消費支出 11月新築住宅販売	
12/24(金)	11月住宅着工件数 11月消費者物価指数		
12/25(土)		(クリスマス)	
12/27(月)	2年債入札	2年債入札	
12/28(火)	11月鉱工業生産 11月労働力調査	12月消費者信頼感指数 5年債入札	
12/29(水)		7年債入札	
12/30(木)			
12/31(金)			(中) 12月PMI

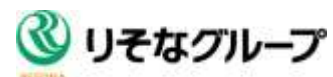


◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/29～11/4】

◎ 発改委石炭消費削減目標を設定

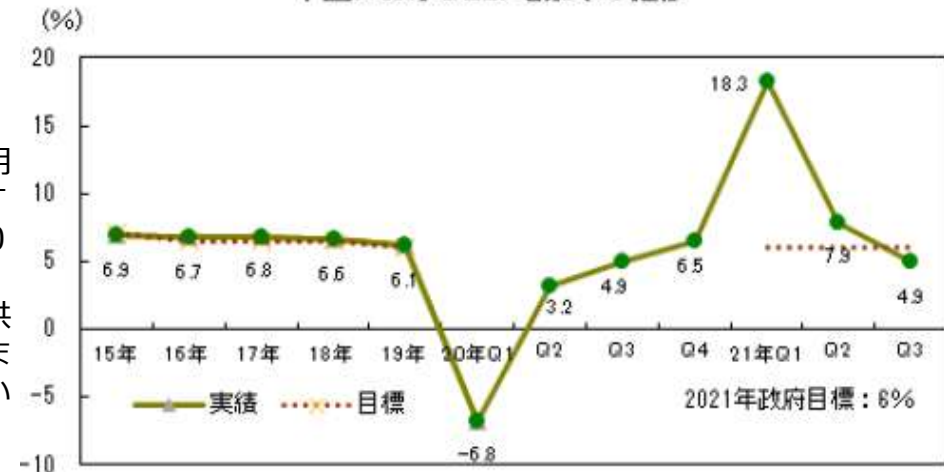
中国国家発展改革委員会（発改委）は3日、全国の火力発電所で使用される石炭の平均消費量について、25年までに300g/1KWHにする目標基準を設定した。中国は30年までの排出量ピークアウトと60年までのカーボンニュートラルを目指すとの公約を掲げている。発電・熱供給業は二酸化炭素の排出総量の約4割を占める。一方で、石炭の供給不足に起因する電力不足の懸念を払拭する為、政府は電力需要が高まる冬場に向け、供給拡大、価格水準の調整、輸送網の整備を強化している。

【11/5～11/11】

◎ 10月のCPI 1.5%上昇

中国国家统计局のデータによると、10月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比1.5%上昇で、先月から0.8ポイント拡大し、5カ月ぶりに上昇に転じた。構成別の伸び率については、交通・通信：7%、生活用品・サービス：0.9%、医療・保健：0.6%、衣類：0.5%。一方、食品・たばこ・酒は▲0.9%、その他用品・サービスは▲0.5%だった。うち、工業向け消費品価格が3.8%上昇し、値上がり圧力が依然として継続している。また、1～10月平均CPI上昇率は前年同期比0.7%だった。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)

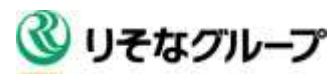


◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/12～11/18】

◎ 10月の主要経済指標鉱工業と消費分野が回復傾向

中国国家統計局のデータによる、10月の主要経済指標は、鉱工業生産額と小売売上高の伸び幅が拡大した。鉱工業生産額は前年同月比3.5%増となり、19年同月比10.6%増だった。一方、自動車製造業は7.9%減と低調だった。世界的な半導体不足と国内の電力制限措置の影響を受けたと推測。また、同月小売売上高は前年同月比4.9%増となり、19年同月比9.4%増だった。1～10月のEC売上高は前年同期比17.4%増となり、うち商品小売売上高は全体の23.7%を占めた。

【11/19～11/25】

◎ 元高傾向来年も継続可能性あり

中国外貨取引センターが算出する人民元為替レート指数（複数の外貨に対する為替レートから算出した人民元の為替相場指数）は101.82となり、約6年ぶりの高水準を記録した。20年末比では7.4%上昇しており、元高傾向が鮮明となっている。中国の輸出好調による決済需要拡大が元高の高騰に寄与し、来年6月ごろまで元高傾向が続く可能性があるとして中国民間格付機関の首席マクロアナリストは予測している。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10
実質GDP成長率	%	6.5	-	-	18.3	-	-	7.9	-	-	4.9	-
消費者物価上昇率	%	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7	1.5
都市部調査失業率	%	5.2	-	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1	5.1	4.9	4.9
輸出額	10億ドル	281.7	263.7	204.7	240.9	263.6	263.8	281.4	282.7	294.3	305.8	300.2
輸入額	10億ドル	205.9	201.9	169.2	229.0	222.6	220.1	230.6	226.4	236.0	239.0	215.7
経常収支	100万ドル	273,980	-	-	69,446	-	-	122,749	-	-	202,849	-
外貨準備高	10億ドル	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2	3,221.8	3,214.0	3,235.9	3,232.1	3,200.6	3,217.6
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52	6.42	6.43	6.48	6.48	6.46	6.41

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○「ゼロコロナ」について

中国国際輸入博覧会（輸入博）が上海で開催されました（11月5日～10日）。中国の習近平国家主席は開幕式にオンライン出席しました。輸入博は今回で4回目になります。

最近、複数の地域で新型コロナウイルスの感染者が報告されています。中国では、「ゼロコロナ」という防疫対策を取っているため、緊張感が再度一気に高まっています。今年の輸入博も厳しい防疫措置を取り、来場者には48時間以内のPCR陰性証明とワクチン接種完了証明が求められるようです。

感染者が報告されたことで中リスク地域として管理されている江蘇省常州市に住んでいる知り合いが仕事の関係で輸入博に来場する予定でしたが、主催者から「登録された住所が中リスク地域なので、入館証明が無効になります。上海に移動して来場しないようお願いします」とのショートメッセージが入ったと聞きました。

ビジネス正常化と防疫対策との調和が実現できるまでにはまだ程遠いと感じています。



○上海ガニについて

上海ガニの産地は実は上海ではなく、江蘇省蘇州市の陽澄湖にあります。中国では上海ガニのことを「大闸蟹」と言い、はさみがおおきいカニという意味です。陽澄湖産の「大闸蟹」が中国国内でよく知られており、「陽澄湖大闸蟹」という商標まで登録しています。値段は言うまでもなく、ほかの産地のものと比べ、数倍以上に高いようです。

ただ市場に行ったら、格安の「陽澄湖大闸蟹」もしばしばみかけます。完全な偽物もあれば、「風呂ガニ」もあります。「風呂ガニ」というのは、違う産地の「大闸蟹」を高く売するために、陽澄湖まで運んでしばらく湖に浸したり、陽澄湖の水で洗ったりして「陽澄湖大闸蟹」と名乗って売り出すことを指します。

今まで食べた「大闸蟹」の中には、「風呂ガニ」もいっぱいあったことに違いありません。ですが「風呂ガニ」にも立派なものもあるので、そのおいしさについては、実は差がないこともあります。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年9月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染症対策の緩和を受けて回復基調に入った。民間消費指数は前年同月比6.8%下落したものの、ほぼすべての分野で前月から上昇した。民間投資指数は同5.9%上昇。機械・設備投資は需要の回復やビジネス心理の改善に合わせて増加。建設投資も増加傾向が続いている。鉱工業生産指数は同1.3%減。国内外の需要拡大により複数の品目で改善がみられる。一方、世界的な半導体不足やコンテナ不足が特に自動車、家電分野等の生産に引き続き影響を与えている。外国人旅行者は前月比減少した。公共投資は引き続き経済をけん引している。

◆タイ商務省によると、2021年9月の輸出額は前年同月比17.1%増の230億3,600万米ドルと、7カ月連続で前年同月比を上回り、伸び率も2カ月ぶりに2桁に加速した。農産物・加工品の輸出は前年同月比12.1%増と10カ月のプラスとなった。工業製品は同15.8%増で7カ月連続のプラス成長。自動車・同部品、鉄鋼・同製品、

石油関連製品、コンピューター・同部品、工作機械等の輸出も増加した。電話機、洗濯機・乾燥機等は減少。市場別では米国向けが最多。中国、日本、欧州連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）向けはいずれも2桁の伸びとなった。オーストラリア向けも3カ月ぶりにプラスに転じた。9月の輸入額は同30.3%増の224億2,620万米ドルで、貿易収支は6億980万米ドルの黒字となった。一方、9月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル＝33.04バーツで、前月の33.09バーツ比横ばいだった。

◆タイ商務省が発表した10月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比2.38%上昇した。燃料価格の上昇や、野菜が洪水被害による減産で価格高騰したことが要因。食品・飲料は同0.26%下落。非食品は同4.15%上昇。また、今年1～10月のCPI平均値は前年同期比0.99%上昇。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10
実質GDP成長率	%	-4.2	-	-	-2.6	-	-	7.6	-	-	-0.3	-
消費者物価上昇率	%	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4	2.4	1.3	0.5	-0.0	1.7	2.4
失業率	%	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	-
輸出額	100万ドル	20,076	19,707	20,219	24,222	21,429	23,058	23,699	22,651	21,976	23,036	-
輸入額	100万ドル	18,958	19,909	20,212	23,512	21,247	22,262	22,754	22,467	23,192	22,426	-
経常収支	100万ドル	-574	-903	-1,347	-939	-733	-2,214	-1,430	-456	-2,536	-1,346	-
外貨準備高	10億ドル	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4	251.8	246.5	248.0	252.0	244.7	246.1
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	バーツ	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3	31.3	31.5	32.6	33.1	33.1	33.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

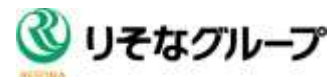
出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2021年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

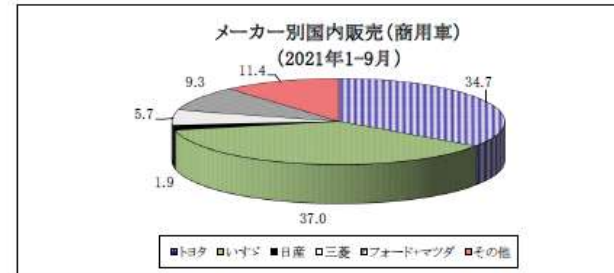
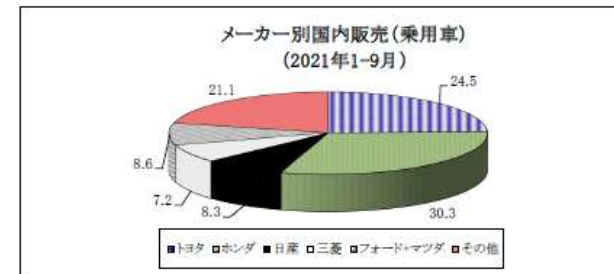
		2018年	2019年	2020年	2021年 (1-9月)	前年同期比 (%)	9月	
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	884,609	804,340	542,437	437,822	120.5	54,073
		商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	774,124	129.2	85,965
		合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	1,211,946	125.9	140,038
	国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	176,140	93.3	25,255
		商用車	642,082	609,166	517,357	355,791	102.8	38,867
		合計	1,041,739	1,007,552	792,146	531,931	99.5	64,122
	輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	677,481	129.9	73,831
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	1,279,494	114.9	110,017	
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	1,202,205	104.9	109,879	
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	720,341	140.5	69,179	
【完成車輸出金額】		(百万バーツ)						
四輪			594,810	545,968	410,912	394,654	136.9	44,778
二輪			61,654	69,933	85,802	59,013	139.4	4,902



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-9月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	9月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	43,101	94.4	24.5	5,237
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	123,459	110.8	34.7	14,734
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	166,560	106.0	31.3	19,971
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	131,529	106.5	37.0	13,649
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	131,529	106.5	24.7	13,649
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	53,406	98.1	30.3	5,849
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	7,923	74.6	2.2	462
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	61,329	94.3	11.5	6,311
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	14,631	75.6	8.3	1,140
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	6,816	49.8	1.9	1,006
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	21,447	64.9	4.0	2,146
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	12,614	80.4	7.2	1,416
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	20,307	81.8	5.7	2,088
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	32,921	81.2	6.2	3,504
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	52,388	97.7	29.7	11,613
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	65,757	106.3	18.5	6,928
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	118,145	102.3	22.3	18,541
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	176,140	93.3	100.0	25,255
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	355,791	102.8	100.0	38,867
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	531,931	99.5	100.0	64,122



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。